

TYPE OF INDUSTRY



科学技術・大学



情報通信研究機構 NICT 先端研究

①

2017年9月初旬、太陽外層大気で爆発現象「太陽フレア」が発生しその影響が地球に及んだことで、世界各地でオーロラが発生し、通信・GPSなどに影響が出たことが

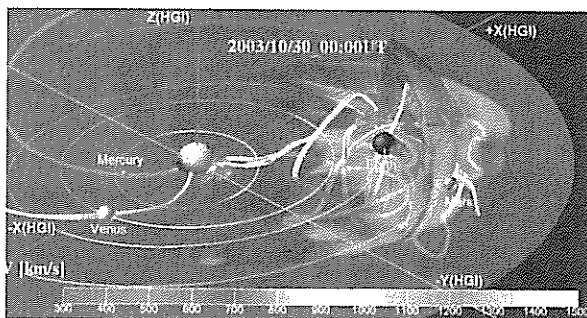
ニュースになった。太陽フレアに伴って放出されたガス（プラズマ）の塊は、「コロナ質量放出（CME）」と呼ばれる。これは、普段は地球の磁場「地磁気」がバリヤーの役割を果している。しかし、太陽風が地球に到達すると、CMEは太陽から放出される。向に向かってきた場

太陽系の嵐の影響予測

情報通信研究機構・電磁波研究所
宇宙環境研究室研究員

塩田 大幸

07年京都大学で博士号を取得後、国立天文台、海洋研究開発機構、理化学研究所、名古屋大学などを経て現職。名古屋大学宇宙地球環境研究所客員准教授兼任。太陽風の研究と太陽風の予測のための数値シミュレーション開発に従事する。博士（理学）。



しかし、実際の伝搬所要時間は、太陽表面の磁場観測やCMEの観測を用いて、太陽風は、放出から地球までの伝搬過程で周囲にある「太陽風」と磁場を予測するシステムを開発している。CMEが地球に到来したとき、このシステムは日々のシミュレーション結果、チューブが磁力線を示す。

（火曜日に掲載）